

- Hakone, Sept. 1966. Jap. Soc. Plant Physiol.
- SEGAWA, S. 1935. On the marine algae of Susaki, Prov. Idzu and its vicinity. Sci. Pap. Inst. Alg. Res., Fac. Sci., Hokkaido Imp. Univ. 1: 59-90, pls. 19+20.
- TANAKA, J. and CHIHARA, M. 1984. A new species of *Myelophycus* (*M. cavum* sp. nov.) with special reference to the systematic position of the genus (Dictyosiphonales, Phaeophyceae). Phycos 23: 152-162.
- WYNNE, M. J. 1969. Life history and systematic studies of some Pacific North American Phaeophyceae (brown algae). Univ. Calif. Bot. 50: 1-88.
- WYNNE, M. J. 1971. Concerning the phaeophyceean genera *Analiopus* and *Heterochordaria*. Phycologia 10: 169-175.
- YENDO, K. 1907. The Fucaceae of Japan. J. Coll. Sci. Tokyo Imp. Univ. 21(12): 1-174.
- YOSHIDA, T., NAKAJIMA, Y. and NAKATA, Y. 1985. Preliminary check-list of marine benthic algae of Japan. I. Chlorophyceae and Phaeophyceae. Jap. J. Phycol. 33: 57-74. (in Japanese)

鯨坂哲朗：和歌山県加太産のイシゲ（褐藻類）の複子嚢と遊走細胞の発生

イシゲの藻体で、今回初めて複子嚢が観察された。それらは単列で皮層の同化糸が変成してできる。この複子嚢からの遊走細胞は培養すると、偽柔組織の盤状体ステージを経て、直立するイシゲ藻体に生長した。(606 京都市左京区北白川追分町 京都大学農学部熱帯農学専攻)

新刊紹介

CROASDALE, H. & E. A. FLINT: Flora of New Zealand Desmids. Volume II. Botany Division, D.S.I.R., Christchurch, New Zealand. NZ \$57.50 (邦価約 7,400 円)

先に藻類35巻2号90頁で紹介した第1巻と同じ2名の著者らによる第2巻で、ニュージーランド産の *Actinotaenium* 属14種, *Cosmarium* 属129種, *Cosmocladium* 属2種, *Xanthidium* 属13種, *Spinoclosterium* 属未同定種, 変種, 品種合わせて267分類群を含む。第1巻とは印刷及び出版元が異なるため、紙質と装幀がほんの少し変化した。第1巻と同質の美しい書物である。カバーの水彩画は各巻で取扱っている鼓藻類の種類を示しており、書棚から必要とする巻を無意識に取り出させてくれる。ニュージーランドの鼓藻類の生息地のカラー写真は新たに全頁版1葉と半頁版16葉が含まれており、第1巻と合わせて彼地に対する臨場感を強めている。採集地の地図2葉と植生や水質等の環境条件を附記した採集地リスト(表1~7)及びニュージーランド産鼓藻類の属の検索表は第1巻と同じものが本巻に

も掲載されており、便利である。各種の記載は33~125頁に、続いて126~128頁に用語説明(本巻で必要とされる用語が附加されている)があり、129~140頁に約400の引用文献を掲載し、142~147頁は索引である。記載種の線画スケッチは1巻と同じく図と種名が見開きになっており、1巻に続いてプレート28からプレート61の34頁にまとめられている。本巻では、J. RALFS (1807-1890), W. M. MASKELL (1840-1898), C. F. O. NORDSTEDT (1838-1924) と H. L. SKUJA (1892-1972) の4人の著名な鼓藻類学者の略伝がそれぞれ1頁に写真1葉とともに記述されている。また著者らの写真1葉がカバーの綴じ込み部分に掲載されている。本シリーズでは新分類群の記載がほとんどないのは残念であるが、彼地の鼓藻類の研究はまだ十分に行われたと言える状態であるとは思えないことから、今後ニュージーランドの鼓藻類の研究を始める人にとっては、古い資料を網羅整理した重要な文献の1つであることは確かである。

(東京大学応用微生物研究所 市村輝宜)

の生長と成熟. 水産増殖 33: 177-181.
 UMEZAKI, I. 1984. Ecological studies of *Sargassum horneri* (TURNER) C. AGARDH in Obama Bay, Japan. Sea. Bull. Japan. Soc. Sci. Fish. 50: 1193-1200.

YOSHIDA, T. 1983. Japanese species of *Sargassum* subgenus *Bactrophycus* (Phaeophyta, Fucales). J. Fac. Sci., Hokkaido Univ. Ser. V 13: 99-246.

新 刊 紹 介

GREUTER, W., H. M. BURDET, W. G. CHALONER, V. DEMOULIN, R. GROLE, D. L. HAWKSWORTH, D. N. NICOLSON, P. C. SILVA, F. A. STAFLEU, E. G. VOSS, and J. MCNEILL (ed.): *International Code of Botanical Nomenclature*, adopted by the Fourteenth International Botanical Congress, Berlin, July-August 1987. *Regnum Vegetabile* volume 118. xiv+328 pp. Koeltz Scientific Books, Königstein. 1988. DM 60.00 (約 6,000円). ISBN 3-87429-278-9.

国際植物命名規約の新しい版が発行された。第14回国際植物学会議における決定を盛りこんだもので、会議開催地にちなんで“Berlin Code”と略称される。会議から1年で印刷されたのはこれまでになく早いものである。いうまでもなく、これからはこの“Berlin Code”に従って命名上の取り扱いをしなければならず、以前の版はもはや有効ではない。

今回の改訂でまず目につくのは、規約本文が英語だけになり、フランス語・ドイツ語で書かれた部分が除かれたことであろう。そのため全体のページ数は140ページ少なくなった。規約の適用範囲が明示され、藍藻はこの規定に従うこととし、その他の原核生物は細菌の命名規約 (Bacteria Code) によるとされた。原核生物=細菌という主張からの論議や混乱はこれで一応解消された。しかし、これでは *Prochloron* や *Prochlorothrix* がこの規約の範囲外になってしまうという問題を残している。

規約そのものは大きな変更はなく、最後の属名の性にかんする勧告が規約に組み込まれて第76条となっているけれども、非合法名の取り扱いに関する第66, 67条が削除されたので、全体としては71条からなっていることになる。変更は規約の適用を明確にするためのもので、条項をふやしたり、例を加えたり、より適

切なものにしてある。

改訂の重要な点はタイプに関係するものである。これまで、タイプは標本またはその他の要素 “one specimen or other element” とされていたのが標本または図解 “one specimen or illustration” となった。これで古い時代の記載 (例えば Hudson 1762) をタイプとすることはできなくなった。タイプに関する第7条が強化されて、Sydney Code で「タイプ決定の手引き」で規定されていた内容が第7条に組みこまれた。1990年1月1日以降は、学名の正当な発表のためにはタイプを明確に指定し、“Typus” ないし “Type” の語を付けて、その保管場所も示さなければならない。これまで勧告などで示されていたものが条文の中に入って、新分類群の発表の条件が厳しくなっている。

科名の保留の方法について意見が分かれ、Congressのときに決まらず、その後分類群ごとの委員会で討議され表決がおこなわれた。藻類委員会ではこれまでどおり特定の廃棄名に対して保留する事になった。これと同様の決定をしたのは羊歯類である。これに対して、せん苔類と種子植物では、保留名はすべての異名に対して保留されることになり、これに伴って保留科名のリストが二つに分けられた (Appendix IIA 藻類, 菌類, 羊歯類, IIB せん苔類, 種子植物)。

保留属名の表 (Appendix IIIA) にはいくつかの追加がある。藍藻には *Anabaena*, *Rivularia*, 紅藻には *Audouinella**, *Corynomorpha*, *Hildenbrandia**, *Lithothamnion*, *Nemastoma**, *Suhria*, 珪藻 *Cerataulina*, *Cyclotella*, *Hemiaulus*, *Rhopalodia*, 黄色藻 *Anthophysa*, 黄緑色藻 *Botrydiopsis*, *Centritractus**, *Tetraedriella*, 緑藻 *Anadyomene**, *Chlamydomonas*, *Gloeococcus*, *Prasiola*, *Sphaeroszma* (*は緩りの保留) が加えられている。

(北海道大学理学部植物学教室 吉田忠生)